

教科	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取組）	成果(○)と課題(△)
国語	・相手や目的を意識して書くことを選び、必要な情報を集め伝えたい内容を明確にしようとする児童が増えた。 ・文法、文字や語句、漢字の定着に個人差がある。語彙の引き出しが少なく、自分の思いを表現する言葉を適切に引き出せない児童もいる。	・教科を問わず様々な場面で書くことを習慣付け、書くことへの抵抗を減らすようにする。 ・文法、文字や語句、漢字の問題を出題する際は、選択肢の中から選べるようにする、クイズ形式で出題するなど苦手意識をもたないように問い掛ける。	
社会	・学習への興味・関心はとても高く、意欲的に調べ学習やまとめの活動を行うことができた。 ・当たり前のように身の回りで行われていることや自分たちの生活を支えてくれている人々がいることなどに対し、問題意識をもつ児童が少ない。	・学習を通して学んだことやこれからの生活に活かしたいこと等を家族や全校児童に呼び掛けたいという強い思いをもつほど、意欲や関心が高かった。調べた情報は友達や他学年に発信するなど目的意識をもたせた活動を積極的に行う。 ・実際の現場で働いている方のお話や様子を見に行き、私たちの暮らしを支えていることに気付かせる。また、防災学習などとも関連付けがら児童に課題意識をもたせていく。	
算数	・計算問題やデータを読み取る活動では友達と協力したり、自ら問題解決に向かったりする姿が多く見られる。 ・単位と実際の量感を結びつけることができず、単位変換ができていない児童がいる。また、角度や長さを測ることが難しい児童もいる。	・協働的に学習する児童が多くいるため、今後も継続する。また、計算問題への意欲は高いため、基礎的な技能や思考を伸ばしつつ、発展的な問題を少しずつ取り入れる。 ・導入で生活と結び付けて発問することを意識し、児童が考えやすい場面を設定する。また、学習した内容を生活の中でも取り入れながら、学習の定着を図る。	
理科	・観察や実験に目的や高い意欲をもって取り組む児童が多かった。 ・過程を飛ばして答えだけを導こうとする姿があるため、実験や観察を通して考察する力を養う必要がある。	・今後も、身近な出来事や疑問の中から学習課題を設定し、実験や観察と実体験を結び付けて考えられるよう指導を重ねていく。 ・実験や観察を通してさらなる疑問を見出したり、実験の過程から分かったことを結果としてまとめたりすることができるよう、指導を重ねていく。	
音楽	・曲想を感じ取って思いをもちなが身体を動かし楽しく歌うことができる児童が多い。自然で無理のない発声にも前向きに取り組むことができるようになってきている。 ・互いの歌声や副次的な旋律を聴いて声を合わせて	・曲の特徴をとらえた表現ができるように、曲に対しての気付きを深めたり、強弱や速度、スタッカートなどの表現方法を工夫したりして、表現する楽しさを味わい思いを膨らませる活動を多く取り入れていく。 ・互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて歌うことができ	

	歌う技能を身に付けることが必要である。	るように、輪唱や曲の一部分が二部合唱になっているものなど選曲を工夫し、歌声が重なる経験を多く学習していくことで楽しく無理なくできるようにしていく。	
図画 工作	・意欲的に作品制作できる児童が多い。また、友達の作品の良いところを見つけることができる。 ・表したいものに応じて既習した技法を活用しようとする児童が少ない。	・友達同士の関わりを通して表現活動の多様性を知り、自分に合った表現方法を探究することで学習意欲を持続させる。 ・これまで経験した技法を振り返ったり、目に見える形で掲示したりして、既習技法を活用・応用することができるようにする。	
体育	・どんな運動に対しても前向きにすすんで取り組む児童が多い。 ・ゲームでは勝敗やルールにこだわりすぎてしまう児童が見られる。	・引き続き運動との出会いを大切にし、児童が「やってみたい」と思える運動の提示を行う。また、課題を焦点化し、スモールステップで児童が達成感を味わえるようにする。 ・勝利を目指して活動する姿勢は認めていく。相手や仲間を認めるポジティブな声掛けをしている児童をさらに価値付け、協働する楽しさを味わわせる。	
道徳	・教材文を通して道徳的価値について考える際、自分の経験から想起したり、自分事として真剣に捉えたりする児童が多い。 ・道徳の授業の時間の中での発言やワークシートに書かれている気付きや思いを、生活の中に生かしていくことが課題である。	・児童の心を揺さぶる発問を挟んだり、「自分だったらどうするか」と投げかけたりすることで、自分事として捉え、道徳的価値についての議論が活発になったので、今後も継続していく。 ・正論やきれいごとだけではなく、誰しものが抱える葛藤や心の弱さなどにも十分共感した上で、どうすべきかやどういう行動をとれたらよいかなど話し合いを行わせる。毎時間、自分を見つめ直す時間を十分に設ける。	
総合	・自分たちが実践することのできる防災対策について、調べる、まとめる活動にすすんで取り組む児童が多かった。 ・発表という形式になると構えてしまい、自分の思いを上手に伝えることに課題のある児童もいる。	・自然災害や防災に対する動機付けを行ったことで、児童が興味をもち学習に取り組めた。個人でまとめたものはグループ内で発表を行い、互いによいところとアドバイスを伝え合った。適宜報告を行ったことで、自分の進捗状況や他者意識をもって情報を発信しようとしていた。 ・発表前にリハーサルや小グループでの伝え合い活動をこまめに行い、全体の発表前に繰り返し練習することができる環境を整える。フィードバックの際には相手を受け止める、よさを評価することできるように指導を行い、自信をもって自分の思いを伝えられる雰囲気をつくる。	
外国 語活 動	・ALT と積極的に関わったり、楽しく活動に取り組んだりすることができる児童が多い。新しく知った言葉を積極的に発音してみようとする児童もいる。 ・間違えることを恐れ、発音することに難しさを感じる	・クラス全体で外国語に親しみ、恥ずかしがってしまう児童にとっても挑戦しやすい雰囲気づくりを心掛けていく。また、ALT と担任も一緒になって楽しみながら学べる授業をつくっていく。 ・ペアワークのときなど、苦手意識のある児童も少しずつ発	

	じる児童がいる。また書く活動でも、新しく学んだ言葉の意味とつづりを結び付けることが難しい児童がいる。	音したり書いたりすることができるよう、個別に声を掛けていく。	
--	--	--------------------------------	--